

三年学年だより

No. 6

9月号

令和7年9月発行

304HR

学ぶ姿勢と方法を再確認する2学期に

夏休み中、恩師から「言語活動」をテーマにしたお話を伺う機会がありました。その中で紹介されたのが、「Learning Pyramid (学習のピラミッド)」という右図です。この図からは、講義形式のような受け身の学習よりも、誰かに教えるといった能動的な学びの方が記憶に残りやすいことがわかります。つまり、学習の定着には、自ら関わる姿勢が大切だと科学的にも示されているのです。

学びは、ただ知識を受け取るだけではなく、知的
好奇心から始まり、自分の手でつかみにいくもので

す。ある生徒は、「英語は音読が大切」と言われて素直に続けていたところ、二次試験で言葉に詰まったとき教科書のフレーズが自然と口をついて出てきたそうで、英検2級に合格しました。このように、読む・聞くだけでなく、話す・書く・教えるといったアウトプットを通して、理解が深まり、学びが自分のものになっていきます。

受験勉強は、特別なことではなく、日々の積み重ねの上に成り立っています。「夏を制する者は受験を制す」と言われる夏が過ぎ、2学期は改めて「学ぶ姿勢」と「学習方法」を見直すよい機会です。丸暗記や動画視聴だけで「勉強した」と思っている、思考力・判断力・表現力といった力は本当に身についているのでしょうか。受験勉強は孤独に感じることもありますが、人に質問したり、教え合ったりする言語活動を通して、問題解決力やコミュニケーション力、協働力、そして学び続ける力が育まれます。これらは教科書には載っていませんが、社会で生きていくうえで欠かせない力です。仲間との関わりの中で元気をもらい、また前向きに机に向かうこともできます。

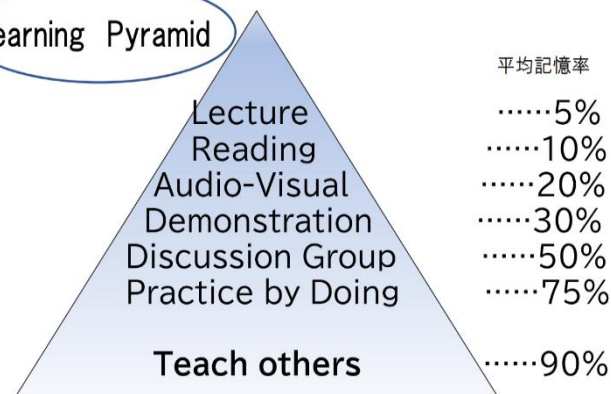
今、「学ぶ姿勢」と「学習方法」を見つめ直すときです。受け身ではなく、自ら学びに向かう気持ちを大切にしてください。あなたの学びは、未来を広げる力になります。(304HR担任)

名将の言葉

「迷ったら前へ。苦しかったら前に。つらかったら前に。後悔するのはそのあと、そのずっと後でいい。」—阪神タイガース・星野仙一監督の言葉です。受験を控えた今、迷いや不安を感じることもあるでしょう。しかし、立ち止まらず、前に進むことが大切です。今こそ、自分の覚悟が試されるときです。

同じく阪神の監督を務めた野村克也元監督は、江戸時代の剣術の達人・松浦静山の言葉を引用して「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」と語りました。これは、勝ったときには運や偶然が絡むこともあるが、負けには必ず原因があるという意味です。思うような結果が出ないときは、必ずどこかに見直す点があります。勉強の質、時間の使い方、集中力、生活習慣……すべてが結果に直結します。「今日は疲れたから」「まだ時間はある」……そんな言い訳をしているうちは、本気とは言えません。自分に甘えず、現実を直視し、改善を重ねることが合格への道です。毎日の積み重ねが、みなさんの未来を作ります。仲間と励まし合いながら、悔いのないように高校生活を締めくくりましょう。勝負の秋、ここからが本番です！(304HR副担任)

Learning Pyramid



(出典: National Training Laboratories)